

令和3年度 第2回体力向上ステップアップミーティング報告

参加者の声(ワークシートより)

① 投能力の向上を目指した授業事例動画の視聴

(2年ボールゲーム^{※1}、3年走・跳の運動における投の指導^{※2}、5年ベースボール型)

【① 投能力向上につながる授業内での工夫】

～小学校教員～

- ・体操の中にも投動作につながるものがあり、よかった。
- ・どの授業も主運動に関連のある活動で構成されていて系統性があった。
- ・系統的に高めていくことの重要性を感じた。
- ・「投」に関する学年別の具体的な取り組み、またそれらに関するポイントを知ることができた。
- ・教材教具の工夫により、投の動きが変わることがわかった。
- ・授業の途中で「どのようにしたら、遠くまで投げられるか」を確認しているのがよかった。
- ・活動を進めるだけでなく、ふり返りの場面を確保し、児童の思考を深めていた。
- ・紙や新聞紙でボールを作成することで児童一人ひとりに与えることができ、運動量の確保につながる。
- ・低学年のボールゲームの実践を見て、低学年の児童たちの能力に合わせた教具を用いているところがよいと思った。自校でも実践したい。
- ・ボールゲームで落下地点に素早く入る動作がよかった。
- ・低学年でも準備を自分たちでしていたところがよかった。
- ・壁に向かって的当てをする活動がよかった。(ボールは、牛乳パック製:壁を傷つけない重さ・硬さ)2人組だと時間がかかるが、的当てだと1人で投げる時間を確保できるのでよい。

～中学校教員～

- ・中学校の視点から見ると、小学校であれだけ細かい動きをしているのがよかった。
- ・小学校の間にスモールステップで学習していくと、中学校でも生徒に指導しやすい。特に投動作の指導では、段階をふんで指導していくことが大切だと感じた。遠くに投げるためには、角度の設定も大切になってくる。バトンスローは投げる動作だけでなく、打つ動作にもつながる。
- ・バトンスローは、中学校でのジャベリックスローの動きにつながる。
- ・小学校では投げることにに対して細かな指導をしていることに感心した。中学校では、すぐに競技の授業になってしまう。
- ・中学校の教師から見て、小学校で今日のような投動作の指導をしていただいていると助かる。たくさん投げているのを見ていいなと思った。

【② (①を受けて)自校で実現可能と考える授業内での工夫や課題】

～小学校教員～

- ・授業で投動作を取り扱うことが少なかったなので、今日の動画を参考に取り組んでいきたい。
- ・牛乳パックボールは児童でも作りやすく、量産しやすい教具になると思う。
- ・新聞紙バトンなど、児童が自分自身で作れるものは愛着もわき、積極的に運動に取り組めると考えたので自校でも行っていきたい。
- ・投の運動能力向上を継続するため、保体部を中心に今日紹介していただいた活動を全体共有して各学年で

取り組んでいきたい。

- ・クラスルームに動画をあげて自宅学習を促している。
- ・児童たちの恐怖心を減らす教具の工夫。
- ・苦手な子もやってみたいと思うルールづくり。
- ・時間に限りがあるため取り組めないことが多いのが現状。→職員研修等で教具を作る時間を設けたい。
- ・準備物の大変さ。学年担任だけでなく、体育部を中心に研修などを通して教具を作っていく必要がある。
- ・安全面をどのように確保していくのかなども、しっかりと検討する必要がある。

～中学校教員～

- ・中学校でも投げる手と足が同じになってしまっていることもあり、大変である。→小学校のうちに、基本的な動作を身に付けさせることが必要。
- ・小学校の学習内容を知ることができて参考になった。
- ・中学校としても小学校の取組例を見ることができ、投動作を理解させることが重要だと感じた。

② 投能力向上を目指した各校での取組の交流(第1回体力向上ステップアップミーティングを受けて)

【①投能力に関わる実態と取組内容の交流】

～小学校教員～

- ・放課後にボールを使った活動をしている児童は能力が高いが、それ以外の児童は苦手な子が多いイメージがある。
- ・二極化が大きい。休み時間や放課後等に普段からどれだけボールに触れているかによる。
- ・投能力に個人差がある。→投げ方を低学年のうちから指導していく。
- ・休み時間に取り組んでいる活動もあるが、頻度を増やしていくことが課題。(コロナのこともあり)
- ・一人一台PCが配備されてから、外で遊ぶ児童が少なくなった。それならば、先に調べ学習で体の動かし方を調べるとよい。また、自分が運動している様子の動画と、体育ノ介などの見本動画と比較してみるのもよい。
- ・毎年の投能力が課題となっているが、1年で改善はできないので継続が必要。
- ・ロケットのような教具を使って投げる活動を取り入れたり、フラフープなどで目標をつくったりした。
- ・体力測定の際にソフトボール投げの記録を1年生から6年生まで見られるよう、ファイリングしている。
- ・直径18cmほどの大きなめんこを40枚ほど作った。小さいめんこでは、児童が手ごたえを感じにくいようだったので、大型のものを作った。大きくたたきつける運動や、体づくり運動の教具として活用している。
- ・体力テストのソフトボール投げの記録が、県平均を下回っている。→校舎3階から運動場に向かって、45度くらいになるようにロープをはり、バトンスローを行っている。金属バトンを使用しているので、手すりに当たると音が鳴り、児童は楽しく遊んでいる。
- ・業前(朝の休み時間)に運動タイムを設け、キャッチボールや的当て、ロケットやいろいろなボールを投げている。
- ・古くなったバドミントンのシャトルを投げている。
- ・運動委員会を通じて、玉入れの記録を取るイベントを企画した。
- ・縦割りグループ別の「ドッジボール大会」を学校行事として開催している。

～中学校教員～

- ・投げる動作を積極的には行えるが、体全体を使って大きなフォームで投げるのが苦手な生徒が多い。
- ・4月、5月の体力テストの結果とハンドボールの授業内でのハンドボール投げを数値化して比べている。

【②現時点の成果と課題、困っていること等】

～小学校教員～

成果

- ・女子のフォームが改善された。
- ・タオルを用いることでフォームがよくなった。(肘を引けるようになった)
- ・やみくもに投げずに、投げる方向が定まってきた。
- ・工夫した教具だと、楽しく取り組むことができた。
- ・毎日取り組ませることで、投げるフォームがきれいになった。
- ・見本の動画と自分の投げる動作を見比べることができたので、自分のどこを直せばよいのか確認することができた。
- ・スポーツタイムを設けることで、授業外での投げる機会の確保ができています。
- ・2学期にスポーツテストへのリベンジの機会があるからか、自分の記録を伸ばそうとしている姿が多く見られる。
- ・小中高いっしょにスポーツ大会を開いた。地域連携教育。縦のつながりをつくることができた。

課題、困っていること等

- ・取り組みが不十分なため成果が出ていない。
- ・ボールの投げ方はわかっているのに、ボールの大きさに左右されてしまう。
- ・教具がなかったり、作成するにも費用や時間がかかったりなどするので困っている。
- ・取り組みの成果が出ているのか確認したり、ふり返ったりするのが難しい。(子どもの成長なのか、取組の成果なのか。)
- ・小・中で学年としてどこまでできているかなど連携がとれていないことが課題。
- ・中学校の能力の個人差を埋めていくのに、小学校の基礎的な動きの重要性を感じた。
- ・学校全体に周知していくための方法。
- ・ゲームの面白さを感じようと思うと、ある程度技術が必要だと思う。楽しく技術を高められるような授業を行うことが難しい。
- ・運動嫌いにさせないために、コツがつかみにくい児童に対する手立てをどうするか。

～中学校教員～

- ・中学校になると、道具が足りないし、休み時間などでの運動が少なくなる。小学校のうちに基礎をしていただけるととても助かる。
- ・投げる機会の確保、個人差が大きいときの授業展開が、中学校では特に難しく感じる。